

き重要な門として機能します。和歌山城の東側の地域は、中世では雑賀庄の岡と呼ばれていたため、この名がついたのでしょう。元和5年(1619)徳川頼宣が入国する際、浅野家が提出した引き継ぎ目録に、門の一階部分に「豊三帖有」とあり、今の形と違います。後述する元和7年に城を拡張した際、現在の門に整備したと考えられています。徳川時代、城の内郭へ入る門で二階建ての門は、岡口門と吹上大門だけでした。門の二階部分は北側に蔵が、南側には二階建ての櫓が続いていましたが、現在取り払われ、切妻のような形になっています。空襲でも焼けずに残った旧藩時代の数少ない建築物として、岡口門と横の土塀は昭和32年(1957)国の重要文化財に指定されました。

2. 徳川時代以後の和歌山城

元和5年(1619)、徳川家康の十男・頼宣が五十五万五千石を拝領して入国し、御三家紀州藩が成立します。同7年、幕府より銀二千貫を賜り、二の丸大奥部分を拡張するため西内堀の一部を埋め立て、南の丸・砂の丸を内郭に取り入れ、ほぼ現在の和歌山城の姿となりました。さらに、内堀と外堀の間を和歌山城三の丸(現、番丁)とし、外郭を形成します。こも城内で、藩の役所や重臣等の屋敷がありました。

徳川時代は麓の二の丸が和歌山城の中核です。虎伏山の東の峰に本丸御殿がありましたが、山の上は不便で手狭なためでした。和歌山城二の丸は東部から表・中奥・大奥に分かれます。表は藩士の謁見や儀式を行なう場所、藩士は身分格式で座る部屋が決められていました。中奥は藩主の公邸で、殿様の居間と老中や側近の者、それに世話係の役所、さらに風呂や台所関係の部屋がありました。大奥はその機能によって、御殿(ごてん)向(むき)・長局(ながつばね)向(むき)・広敷(ひろしき)向(むき)に分かれます。御殿向は殿様の居間や寝所など。長局向は奥女中たちの生活空間。広敷向は、大奥の処務を取り扱う広敷役人の役所です。男性は藩主以外大奥に入れませんでしたが、広敷向には男の役人も話していました。

西の丸は藩主の趣味の場で、数寄や式楽の中心でした。能舞台や茶室・茶庭があり、お庭焼きの作陶もここで行なわれました。生活の場である二の丸と西の丸とは御橋廊下で結ばれており、現在復元されています。御橋廊下は藩主とお付きの人、それに奥女中だけが行き来できました。このため、雨でぬれないように屋根をかけ、外から

見えないように壁が設けられ、部屋の廊下のような作りになっています。斜めに架かる廊下橋としては全国的に珍しいものです。

旧藩時代の数少ない遺構として、西の丸には「西之丸庭園」があります。西之丸庭園は昭和60年(1985)に国の名勝に指定されました。現在、西之丸庭園を「紅葉溪庭園」と通称しています。しかし、藩政時代の史料にはその名は見当たらず、江戸時代に果たしてそう呼ばれていたのか疑問です。

ところで、西の丸は初代藩主徳川頼宣によって隠居所として築造され、庭園も頼宣のときに作庭されたというのが通説になっています。しかし、頼宣は西の丸に隠居すると称しながら、実際は和歌山城にほど近い別邸(有田屋町)に居住しました。頼宣が隠居したのは寛文7年(1667)ですが、同2年の「御用番留帳(三浦家文書)」の1月18日条に、「今日西之御丸ニ而年始之御能御座候」とあり、既に能舞台が造られています。西の丸は明暦元年(1655)の大火で焼失した後に建て替えられた可能性が高く、隠居所として築造されたとは言えないでしょう。

また、前述したように、西の丸には浅野時代に「御数寄屋」等の建物が造営されていました。そこには、「御数寄屋」だけでなく「御くさりの間」があり、織部流の数寄屋(茶室)が確認できます。これは、古田織部の弟子で浅野家の重臣となった上田宗箇が造営に参画したと考えられます。そうであるなら、茶庭となる西の丸庭園も上田宗箇が関与し、既に作られていた可能性が高いでしょう。上田宗箇は粉河寺の庭園、徳島城の庭園、名古屋城の庭園を作庭しています。

紀州徳川家は、「南海の鎮」として西日本を監視する役割を担い、八代将軍吉宗、十四代将軍家茂を輩出しました。黒板張だった天守閣は、寛政10年(1798)十代藩主治宝により黒板張から白壁にして白亜の天守閣となります。しかし、落雷により弘化3年(1846)天守閣は焼失しました。天守再建は通常は許可されませんでしたが、御三家ということで認められ、幕府から「有形の通り」との許しを得て、嘉永3年(1850)に再建されます。

明治4年(1871)、廃藩置県で和歌山城は陸軍省の管轄となりました。同34年和歌山公園として一般に公開され、昭和6年(1931)に史跡に指定されます。同10年には天守閣が国宝となりますが、同20年7月9日の和歌山大空襲で焼失。戦後市民からの要望もあり、昭和33年に鉄筋コンクリートで復元されました。



ありがとうございました

田原 久一さん ID.M.はよろしくお願ひします。又、松本はお世話になりました。  
山本 進三さん 遅くなりましたが4月13日(土)の村田会長エレクト邸の桜まつりありがとうございました。また松本空港R.C.公式訪問も無事終了できました。ありがとうございました。  
乾 敦雄さん 武内様、卓話よろしくお願ひします。

谷口 文利さん 松本訪問、風邪で欠席し申し訳ありません。  
岸裏 廣澄さん 武内さん本日卓話よろしくお願ひします。  
島 公造さん 武内様本日の卓話ありがとうございました。楽しみにしています。

阪神タイガース応援団一同  
只今2.5差、あと少しで首位!

本日の累計 26,500円(計6名 7件)(お誕生日お祝い 514,240円 皆出席表彰 65,000円 その他 2,017,259円 累計額 2,596,499円)

本日の例会 5月16日(木)

- 卓話「話し方」  
アナウンサー 笠野 衣美さん
- 皆出席表彰  
吉田 篤生さん 5年皆出席 通算5年  
谷口 文利さん 1年皆出席 通算17年
- ピアノ演奏 中井 利枝さん  
WILLOW WEEP FOR ME(A.Ronell)  
WHEN YOU'RE SMILING(L.Shay)

次回の例会 5月23日(木)

- 卓話「和歌山市動物園について」  
和歌山市まちづくり局まちおこし部和歌山城整備企画課  
課長 山本 勝久さん

前回の例会 5月9日(木)

- 卓話「和歌山城の歴史と特徴」  
和歌山城文化財専門員 竹内 善信さん
- ロータリーソング 山東 勝彦 ソング委員長  
「奉仕の理想」

「確信と絆で作ろう、希望の未来へ!! 今日より一歩」

「奉仕を通じて平和を」

国際ロータリー 第2640地区 和歌山東ロータリークラブ  
URL http://www.werc.jp E-mail info@werc.jp

2013年5月16日(木)  
週報 / VOL.54 No.42(通巻2588)

会長報告

島 公造 会長



皆さんこんにちは。毎年のことですがゴールデンウィークの休日は悩みます。今年は天気にも恵まれ私は5日間ゴルフをしました。少し疲れを感じますがリハビリと思って楽しみました。完全に亭主元気で留守が良いの実践で家内も機嫌が良いです。安倍首相ご苦労にもロシアから中東となかなか元気の良い外交をやっています。この勢いで景気上昇を待ち望む私であります。国民栄誉賞元長島監督と松井秀喜。王、長島と松井秀喜を片並べさすのもいかなものかと思ひます。又安倍首相までジャイアンツのユニホームで、読売巨人軍のお祭りの様な感じを受けたのは私だけだったのでしょうか? この賞は首相の判断でできるとの事です。それとすごいニュース二つ紹介一つはセシウム汚染水の吸着剤1時間で99.9パーセント吸着して一度吸着したものは絶対吸着剤より出ない。今東電の敷地内は汚染水タンクでいっぱいです。これであの沢山のストックタンクをかたづけの事ができます。もう一つ。此はイギリスですがスゴイ「空気から燃料製造」嘘のような本当の話です。空気と水と電気で作るプロセスは大気中の電気分解で水素を取り出しますその水素と空気中のCO2の反応で炭化水素を作るのである、炭化水素いわゆるガソリンであるスゴイ夢のようだが本当の話です。

幹事報告

山本 進三 幹事



一般社団法人和歌山青年会議所より、JCニュース5月号が届きましたので回覧します。

委員会報告

会員増強委員会 瀧川 嘉彦 委員長



入会案内のパンフレットが出来ました。従来は、単年度用でしたが今回は複数年用に作成致しました。お知り合いの方にお配りし、入会のお声掛けをお願いします。残り2カ月を切りましたが一人でのご入会頂ければと思いますので、皆様ご協力宜しくお願い致します。

卓話

「和歌山城の歴史と特徴」 和歌山城文化財専門員 武内 善信さん



1. 徳川時代より前の和歌山城  
天正13年(1585)、羽柴(豊臣)秀吉が紀州を平定し、弟の秀長に命じて岡山(虎伏山)に創建したのが和歌山城です。「和歌山」という地名は、この頃の秀吉の手紙に初めて登場します。この地はそれまで「紀伊湊」や「雑賀」と呼ばれていました。

秀長の築城の際には、城造りの名人として有名になる藤堂高虎らが普請奉行を勤めていました。和歌山城は高虎が手掛けた最初の本格的な近世城郭といえます。秀長が先ず築城したのが、虎伏山の山頂部分でした。この山は、ラクダの背のように東西に峰があります。天守を西側の峰に建てたようですが、実体は分かっています。江戸時代に天守閣の一段下の北西にあった蔵が、その時の天守だとの説があります。

四国攻めの後、豊臣秀長は大和郡山を居城としたため、但馬竹田

城主の桑山重晴が、秀吉の命で秀長の家老となり、和歌山城の城代を勤めます。秀長家が途絶えると、桑山氏が城主となり、山麓部分や岡口の整備に取り組みました。この時は南東部の岡口門を正門である大手門とします。広瀬通り丁が大手筋で、熊野街道につながっていたのです。当時、本町一丁目付近は芦原だったと伝えられています。慶長5年(1600)関ヶ原の戦いの後、浅野幸長(よしなが)が城主となり、城の大規模な増築を行ないます。浅野幸長は、虎伏山の西方の高い峰を「本丸」とし、黒板張りですが、ほぼ現在の形に近い連立式天守閣を建てました。浅野時代は、東側の峰である徳川時代の本丸を「二の丸」と呼び、麓の岡口門を入った楨形を「三の丸」、二の丸を「御屋敷」、西の丸を「御数寄屋」と名付け、南の丸と砂の丸、それに二の丸の西側四分の一ほどを除く和歌山城内郭の大部分を整備します。

また、城の正面である大手を岡口門から一之橋の門に変え、本町通りを大手筋として城下町を整備しました。ただし、岡口門は引き続

出席報告

会員数 43名(内出席規定適用免除会員16名) 山東 勝彦 出席委員長

5月 9日(本 日)	28名	82.4%	4月25日(メーキャップ後)	26名	76.5%	(欠席者8名)
------------	-----	-------	----------------	-----	-------	---------

皆さん、出席してください。